

小児在宅医療実技講習会

「講義」と「実技講習（医療的ケア人形を使用）」から構成される。

◆2012年7月に、赤ちゃん成育ネットワーク・

新生児医療連絡会・日本小児在宅医療支援研究会

主催で小児在宅医療実技講習会が始まった。

- ・平成24年7月 第1回小児在宅医療実技講習会 大阪
- ・平成25年3月 第2回小児在宅医療実技講習会 大宮
- ・平成25年8月 第3回小児在宅医療実技講習会 福岡
- ・平成26年2月 第4回小児在宅医療実技講習会 仙台
- ・平成26年3月 第5回小児在宅医療実技講習会 大宮

◆第6回より日本小児科学会の主催を検討開始

- ・平成26年8月 第6回小児在宅医療実技講習会 名古屋

※日本小児科学会は共催

- ・平成26年12月 第7回小児在宅医療実技講習会 仙台
- ・平成27年3月 第8回小児在宅医療実技講習会 大宮

1

小児在宅医療実技講習会

「講義」と「実技講習（医療的ケア人形を使用）」から構成される。

◆第9回より日本小児科学会が主催。

各都道府県医師会・小児科学会地方会に開催要請（平成26年4月）

※テキストは、本委員会にて作成

「小児在宅医療実技講習会マニュアル」

日本小児科学会ホームページ＞会員専用ページ

＞各種医療関係情報＞2017年

※予算は地域医療介護総合確保基金を利用



- ・平成27年6月 第9回小児在宅医療実技講習会 北海道
- ・平成28年6月 第10回小児在宅医療実技講習会 倉敷
- ・平成29年6月 第11回小児在宅医療実技講習会 香川
- ・平成30年6月 第12回小児在宅医療実技講習会 千葉

★各地医師会主催で開催される小児在宅医療実技講習会について、対象者を看護師やリハビリテーション療法士等へ拡大する地域が増えてきた。

2

日本小児神経学会 社会活動委員会主催 医療的ケア研修セミナー

CD-ROM付き
テキストを出版

2004年11月 第1回 大津 医師56名
第1回「**医療的ケア**」講師養成セミナー開始
※地域で指導的立場に立つ小児神経専門医への
教育的見地からのセミナー

2005年7月 第2回 仙台 医師66名
2006年7月 第3回 福岡 医師49名
2007年6月 第4回 札幌 医師38名、看護師6名
2008年8月 第5回 高松 医師44名、看護師15名

2009年11月 第6回 東京 医師44名、看護師144名
第6回**医療的ケア研修セミナー**に改称

※対象が、医師主体から、重症神経疾患児・重症
心身障害児(者)に関わる、医師・看護師・保健師
等に広げられた。



「医療的ケア研修テキスト」
重症児者の教育・福祉、
社会生活の援助のために
日本小児神経学会・社会活動委員会
松石豊次郎・北住映二・杉本健郎編
クリエイツかもがわ 2006年11月

3

日本小児神経学会 社会活動委員会主催 医療的ケア研修セミナー

CD-ROM付き
テキストを出版

- 第6回医療的ケア研修セミナー 2011/11/29 東京
参加者227人、医師44人、看護師144人
- 第7回医療的ケア研修セミナー 2010/11/28 名古屋
参加者264人、医師71人、看護師123人、
その他70名(OT・PT等16人、教員25人)
- 第8回医療的ケア研修セミナー 2011/11/13 神戸
参加者205人 医師48人、看護師99人
- 第9回医療的ケア研修セミナー 2012/11/3 仙台
参加者201人 医師33人、看護師92人
- 第10回医療的ケア研修セミナー 2013/10/26 松本
参加者170人 医師35人、看護師83人
- 第11回医療的ケア研修セミナー 2014/11/15 富山
参加者162人 医師39人、看護師86人
- 第12回医療的ケア研修セミナー 2015/8/30 鳥取
参加者183人 医師53人、看護師73人
- 第13回医療的ケア研修セミナー 2016/11/27 長崎
参加者173人 医師59人、看護師67人
- 第14回医療的ケア研修セミナー 2017/11/12 東京 →プログラム
参加者204人 医師57人、看護師78人
- 第15回医療的ケア研修セミナー 2018/11/4 金沢



「医療的ケア研修テキスト」
重症児者の教育・福祉、
社会生活の援助のために
日本小児神経学会・社会活動委員会
北住映二・杉本健郎編
クリエイツかもがわ 2012年4月⁴

統括指導看護師の役割（神戸市）

－ 指導的な立場となる看護師 －

教育委員会直属の常勤職員として学校を巡回し、下記の業務を行う。

- 非常勤看護師等の相談役となるとともに医療的ケアを指導
- 研修の計画・運営
- 各校の医療的ケア推進のための環境を調整する

5

非常勤看護師等への指導

- 非常勤看護師の手技や勤務体制に関する指導・助言
- ケアを行う教職員・看護師の手技に関する指導・助言
- 児童生徒や保護者への対応について指導・助言
- 指導看護師による演習等についての指導・助言
- 非常勤看護師の個別相談

6

研修の計画・運営

- 研修を実施するにあたり協力を依頼している医療関係機関との連携を図る。
- 年間の医療的ケアに関する研修計画を立て、必要に応じ、各校、各関係機関と連絡・調整する。
- 各研修の内容について検討し、実施に向けた手続きを進める。
- 研修当日の運営をする。

7

各校の医療的ケア推進のための環境調整

- 各校の医療的ケア校内委員会に出席し、校内体制整備等に関する指導・助言を行う。
- 各校の医療的ケアの内容や質が均等化するように、連携調整を図る。
- 県知事の認定を受けるための手続きの説明や提出書類の作成依頼、県との連絡を行う。
- ヒヤリハット等による報告があがった際は、改善に向けた手立てを検討する。
- 各校の看護師に欠員が出た場合、募集等の手続きを行う。
- 各校の医療的ケアの必要な児童生徒の状況を把握し、難しいケースの対応について、教職員（看護師含む）と共に考え助言する。

8

1) はじめに

本マニュアルは、平成 27 年度から小児科学会が主催する「小児在宅医療実技講習会」と各都道府県が開催していく「小児在宅医療実技講習会」の標準的教育内容を示すもので、講習会の質を担保するために作成されたものである。

本講習会は医師が対象であり、平成 26 年 12 月まで 7 回開催された小児在宅医療実技講習会に準じて、「講義」と「医療的ケア人形を使用しての実技講習」から構成される。

講義については、基本的には、第 1 回から 7 回の小児在宅医療実技講習会の講義から、分野ごとに 1 講義、担当した講師に執筆を依頼した。忙しい中、執筆をしていただいた、諸先生方に篤く御礼申し上げます。

今後、内容に適時変更を加えていく予定である。本マニュアルに関して意見があれば、日本小児科学会事務局（アドレス：jps-q@mirror.ocn.ne.jp）まで連絡をいただきたい。ただし、基本的には、個別に回答できないことをご了承いただきたい。

なお、本マニュアル中では、「しょうがい」という単語について、「障害」「障がい」「障碍」の 3 通りで表記されている。本マニュアルの基本方針として、固有名詞、法律、書籍名などはそのまま「障害」「障がい」を使用し。それ以外は著者の判断に任せ、統一しないこととした。

2) 利用の仕方

・講義は PDF だけではなくパワーポイント資料も提供する。講義の内容は標準的教育内容を示したものである。

・実技講習については、今までの 7 回の講習会の経験から、より具体的な実技指導を記載した標準的な指導マニュアルを作成した。

・考え方や手技などは、標準的な内容であるので、そのまま講習していただいても構わない。ただし、見解が統一されていない内容も含み、他の考え方や手技を否定するものではない。各都道府県において、本マニュアルを参考にして関係者で協議し、地域の実情に合わせた内容とするように工夫を加えて、講義と実技講習を実施していただきたい。

・また、講習会のイメージがもてるように、第 4 回と第 7 回小児在宅医療実技講習会の呼吸リハビリテーションと排痰補助装置の実技指導の様子を撮影した動画も加えた。

・在宅医療の現場の医師に必要なリスク管理を意識した内容にしたが、基本方針として、「広く浅く、しかし見過ごしてはいけないポイントはしっかり覚えて帰っていただく」という方針で編集した。

3) 利用条件

- ・本マニュアルは、日本小児科学会が作成した講義資料等を無償にて提供しようとするものである。
- ・本マニュアルの内容は、特に個別の条件がつけられているものを除いて、以下の3項目の条件を遵守していただける限り利用は自由であり、小児科学会ならびに著者に許諾を得る必要はない。

①著作権の帰属とその表記についてのルールを守ること

本マニュアルの著作権は日本小児科学会に帰属する。本マニュアルそのまま、あるいは改変を行った上で頒布・公開する場合には、当該資料は小児科学会の資料（あるいは、それを改変を加えたもの）であり、元の資料の著作権は小児科学会に帰属するものであることを明示する必要がある。

★スライドまたは頒布資料のどこかに「日本小児医療保健協議会小児在宅医療実技講習会マニュアルより」と表記して下さい。

②非営利・非商用利用であること

本マニュアルの内容については、商業目的での利用にあたっては日本小児科学会の許諾が必要となる。出版物等に利用される場合は、日本小児科学会事務局までご連絡ください。

③頒布にあたっては、日本小児科学会と同じ条件で行うこと

本マニュアルの内容やそれを改変や翻訳、翻案したものを利用者が頒布する場合には、本項を含む①②③と同一の条件のもと、利用を自由とするようにしてください。

4) ホームページ掲載

日本小児科学会ホームページ > 会員専用ページ > 各種医療関係情報
> 2017年 > 小児在宅医療実技講習会マニュアル (2017.11 一部改訂)

5) 参考図書

いずれも、日本小児医療保健協議会重症心身障害児(者)・小児在宅委員会の委員、または、小児在宅医療実技講習会の講師が編集に関わっており、重症心身障害児(者)医療、小児在宅医療に関して貴重な情報を得ることができ

①「医療的ケア研修テキスト（新版）」

日本小児神経学会社会活動委員会 北住映二・杉本健郎（編）
2012 クリエイツかもがわ

②「実践！！小児在宅医療ナビ 地域で支えるみんなで支える」

前田浩利（編） 2013 南山堂

③「小児在宅医療診療報酬の手引き 第3版」

一般社団法人 大阪小児科医会 2014

・小児在宅医療診療報酬の手引き第3版（補遺版） 2016

一般社団法人 大阪小児科医会 ホーム > 医会刊行物案内

「小児在宅医療診療報酬の手引き 第4版」 ?

一般社団法人 大阪小児科医会 2018 ?

④「重症心身障害児・者診療・看護ケア実践マニュアル」

北住映二・口分田政夫・西藤武美（編） 2014 診断と治療社

⑤「重症心身障害療育マニュアル 改定第3版」

岡田喜篤（監修）、井合瑞江・石井光子・小沢浩・小西徹（編）
2015 医歯薬出版

6) フォルダー名一覧

A. 講義

- A1. 在宅酸素療法 NEW!
- A2. 胃瘻
- A3. 気管切開
- A4. 在宅人工呼吸器
- A5. 呼吸リハビリテーション
- A6. 診療報酬請求 NEW!
- A7. NICU からの在宅医療
- A8. 当事者支援・レスパイト事業 NEW!
- A9. 在宅医療的ニーズ NEW!
- A10. 病院レスパイト NEW!
- A11. 小児在宅医療手技実際
- A12. 小児科医のための「障害者総合支援法」入門 NEW!
- A13. 摂食と嚥下の発達・正常と異常
- コラム1. 高齢者と小児の違い
- コラム2. 福祉制度 NEW!
- コラム3. 防災対策
- コラム4. 障害児をみるポイントとコツ
- コラム5. 小児在宅医療：知ってよかったトップ30

B. 実技指導マニュアル

- B1. 実習総論
- B2. 胃瘻ボタン交換
- B3. 気管カニューレ交換
- B4. 呼吸リハビリテーション
- B5. カフマシン
- B6. 肺内パーカッションベンチレーター (IPV)

C. 動画

- C1 : 呼吸リハビリテーション実習風景
- C2 : 排痰補助装置実習風景
- C3 : 経鼻胃管挿入.
- C4 : 防災対策
- C5 : 気管カニューレ交換手技

7) 内容と執筆者一覧

A. 講義 パワーポイントと説明文

1. 在宅酸素療法の実際
(倉敷中央病院小児科 総合周産期母子医療センター 渡部晋一)
2. 胃瘻の実際 ～在宅での小児の胃瘻管理～
(医療法人 小さな診療所 京極新治)
3. 小児の気管切開ケア・気管カニューレ交換の実際
(地域医療機能推進機構 九州病院小児科 高橋保彦)
4. 在宅人工呼吸器の実際
(大阪発達総合療育センター 小児科 竹本潔)
5. 呼吸リハビリテーションの実際・排痰補助装置の使い方
(東北大学 小児科 田中総一郎)
6. 小児在宅医療に於ける診療報酬請求の実際
(大阪小児科医会在宅小児医療委員会 田中祥介)
7. NICU からの在宅医療 ～地域連携を踏まえて～
(倉敷中央病院小児科 総合周産期母子医療センター 渡部晋一)
8. 医療が必要な子の当事者支援・レスパイト事業
(かねはら小児科 金原洋治)
9. 在宅小児の医療的ニーズ
(おがた小児科・内科医院 緒方健一)
10. 病院での短期入所・入院 現状と課題
(大阪市立住吉病院 小児科 舟本仁一)
11. 小児在宅医療における手技の実際
(医療法人財団はるたか会 あおぞら診療所新松戸 前田浩利)
12. 小児科医のための「障害者総合支援法」入門
(能見台こどもクリニック 小林拓也)

- 1 3. 摂食と嚥下の発達について 正常と異常
(障害児の摂食・嚥下発達の理解)
(光の家療育センター 鈴木郁子)

コラム1. 高齢者と小児の医療的ケアの違い
(医療法人 小さな診療所 京極新治)

コラム2. 医師が知っておくべき医療・保健・福祉制度
(はせがわ小児科 長谷川功、エバラこどもクリニック 江原伯陽)

コラム3. 防災対策
(東北大学 小児科 田中総一郎)

コラム4. 障害児をみるポイントとコツ
(能見台こどもクリニック 小林拓也)

コラム5. 小児在宅医療：知ってよかったトップ30
(埼玉医科大学総合医療センター 小児科・新生児部門 側島久典)

B. 実技指導マニュアル

1. 実習総論
(埼玉医科大学総合医療センター 小児科 高田栄子)
2. 胃瘻ボタン交換
(三重大学 小児外科 内田恵一)
3. 気管カニューレ交換
(地域医療機能推進機構 九州病院小児科 高橋保彦)
4. 呼吸リハビリテーション
(東北大学 小児科 田中総一郎)
5. 機械的咳介助 (MAC) カフマシン
(愛知県心身障害者コロニー中央病院小児神経科 丸山幸一)
6. 肺内パーカッションベンチレーター (IPV)
(東北大学 小児科 田中総一郎)

C. 動画

1. 呼吸リハビリテーション実習風景 wmv : mp4 3分11秒
2. 排痰補助装置実習風景 wmv : mp4 1分44秒
3. 経鼻胃管挿入 wmv : mp4 2分15秒
4. 防災対策
 - 1) 防災対策パワーポイント (動画インストール済み)
 - 2) ブルークロス手動式 wmv : mp4 20秒
 - 3) 新鋭足踏式 wmv : mp4 20秒
 - 4) シリンジ吸引方法 wmv : mp4 12秒
(東北大学 小児科 田中総一郎)
5. 気管カニューレ交換手技パワーポイント (動画インストール済み)
(気管カニューレ交換手技実際 wmv 1分20秒)
(気管カニューレ交換手技人形 wmv 26秒)
(あおぞら診療所ほっこり仙台 田中総一郎)

8) 委員会 研修担当 WG 委員

- | | |
|-------|-------------------------------|
| 三浦清邦 | (豊田市こども発達センター 小児神経科) |
| 小沢浩 | (島田療育センターはちおうじ 神経小児科) |
| 田中総一郎 | (東北大学 小児科
現 あおぞら診療所ほっこり仙台) |
| 長谷川功 | (はせがわ小児科) |
| 高田栄子 | (埼玉医科大学総合医療センター 小児科) |

小児在宅医療実技講習会



日時 平成30年6月3日(日) 9:00~16:00 (開場 8:30)

会場 千葉県千葉リハビリテーションセンター 大ホール
〒266-0005 千葉県千葉市緑区誉田町 1-45-2 TEL:043-291-1831

対象 小児在宅医療に関わっていないしは興味のある小児科医
*小児科学会会員に限ります

定員 60名

申込 平成30年5月9日(水) 締切
*日本小児科学会ホームページよりお申し込みください

参加費 ¥6,000 (テキスト、昼食代込み)



9:00~ 9:05	開会の挨拶	下条 直樹 (千葉大学医学部小児病態学教授)
9:05~ 9:45	小児の気管切開管理	長谷川 久弥 (東京女子医科大学東医療センター)
9:45~10:20	在宅人工呼吸療法の実際	田邊 良 (千葉リハビリテーションセンター)
10:20~11:10	実習1「在宅人工呼吸器」 実習2「気管切開カニューレ交換」	
11:10~11:50	実技研修 (希望者のみ): 病棟で入園児者のカニューレ交換体験	
12:30~13:00	ランチョン動画上映「呼吸リハの実際」「ミキサー食注入」	
13:10~13:30	小児の在宅酸素療法	本田 隆文 (東京女子医科大学八千代医療センター)
13:30~14:00	小児の在宅胃ろう管理	石井 光子 (千葉リハビリテーションセンター)
14:00~14:50	実習3「在宅酸素療法」 実習4「胃ろうボタン交換」	
15:00~15:50	小児在宅医療の現状と課題	前田 浩利 (医療法人財団はるたか会)
15:50~16:00	認定証授与および閉会の挨拶	(日本小児科学会担当理事)
16:10~16:50	実技研修 (希望者のみ): 病棟で入園児者の胃ろうボタン交換体験	

お問い合わせ : 日本小児科学会事務局 東京都文京区後楽 1-1-5 水道橋外堀通ビル 4階 Tel:03-3818-0091

主催 公益社団法人 日本小児科学会

後援 日本小児科学会千葉地方会、千葉大学医学部小児病態学、千葉県小児科医会、新生児医療連絡会、千葉県、千葉市、千葉県周産期新生児研究会、赤ちゃん成育ネットワーク、日本小児在宅医療支援研究会

平成29年度

西尾張 小児在宅医療 講習会

参加無料
要申込

日時

平成30年 **2月24日**(土) 14:00~18:00

場所

一宮市医師会館 2階大会議室(一宮市貴船町3丁目2番地)

対象

尾張西部医療圏(一宮市、稲沢市)に勤務されている医療・福祉関係職種の方

定員

200名

申込方法

裏面受講申込書に必要事項をご記入のうえ、愛知県医師会地域包括ケア推進室まで FAX(052-241-4130)にてお申込みください。

申込締切

2月2日(金) ※ただし、定員以上の申込者があった場合、抽選により受講者を確定します。

開会・挨拶 公益社団法人愛知県医師会理事 野田 正治、一般社団法人一宮市医師会会長 野村 直孝

講演1 愛知県の障害児(者)医療の現状

[14:05~14:35] 豊田こども発達センター長 三浦 清邦

講演2 病院における周産期医療と小児在宅医療

[14:35~15:00] 一宮市立市民病院小児科部長 三宅 能成

講演3 小児在宅医療における訪問看護師の役割

[15:00~15:25] 社会医療法人大雄会 新生訪問看護ステーション・アウン所長 訪問看護認定看護師 木股 美由紀

講演4 重症心身障害児者施設の機能

[15:25~15:50] 社会福祉法人杏嶺会 一宮医療療育センター長 中島 務

休 憩 [15:50~16:00]

講演5 障害児と福祉制度

[16:00~16:25] 一宮市福祉部福祉課専任課長 長谷川 永子

講演6 障害児と相談支援体制

[16:25~16:50] 尾張西部圏域地域アドバイザー 野崎 貴詞

講演7 医療的ケアの実際(胃ろう・気管切開)

[16:50~17:50] 社会福祉法人明世会 信愛医療療育センター副センター長 草間 龍一

総括・閉会 公益社団法人愛知県医師会理事 林 義久

主催 公益社団法人愛知県医師会 / 愛知県

共催 一般社団法人一宮市医師会 / 愛知県小児科医会 / 一宮市小児科医会

第14回 医療的ケア研修セミナー

日本小児神経学会は、社会活動・広報委員会の担当で「医療的ケア講師研修セミナー」を2004年から毎年開催し、その内容をもとに「医療的ケア研修テキスト」を発行してきました。本会は、2009年度より「医療的ケア研修セミナー」と改称され、より多くの方を対象としたセミナーとなっております。2017年度は、下記の要領で東京において開催いたします。

期 日 2017年11月12日(日) 9:30~17:30 (受付開始8:45)

会 場 東京大学内 医学部鉄門記念講堂 〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1

対 象 重症神経疾患児・重症心身障害児者)等の、医療・療育・教育・通園通所・訪問看護などに携わる、医師・看護師・保健師・理学・作業療法士・言語聴覚士・教員・保育士など

目 的 家庭・学校・保育所、障害児者通所施設などにおいて、在宅地域生活支援のために「医療的ケア」が拡がりを持ちながら適切に行われるよう、専門職が知っておくべき方法・技術、リスクおよび制度論などの諸問題について研修し、支援者が知識を共有できることを目的とする。

定 員 250名(申し込み先着順)

参加費 医師7,000円、非医師3,000円、医療系学生2,000円(当日お支払い)

主 催 一般社団法人日本小児神経学会

共 催 日本重症心身障害学会、一般社団法人日本小児看護学会

後援 厚生労働省、文部科学省 板橋区、板橋区医師会、日本小児保健協会、日本小児神経学会関東地方会

問合せ先 一般社団法人日本小児神経学会事務局(東京都新宿区余丁町8-16、ネオメディアトピア4F)

E-mail: seminar@childneuro.jp ; Fax: 03-3351-4067

第14回医療的ケア研修セミナー会長 米山 明(心身障害児総合医療療育センター小児科)

同 事務局 心身障害児総合医療療育センター 小児科内

第14回医療的ケア研修セミナー 事務局(高橋長久)

〒173-0037 東京都板橋区小茂根1-1-10

E-mail: ikeal4-jscn@ryouiku.or.jp Fax: 03-3554-6176

専門医研修単位 小児神経専門医研修単位5単位認められます。

当日の御昼食について:会場内は飲食禁止となっております。ホール内のホワイエないしは13階でのお取りください。

なお東大構内の中央食堂は改装工事のため閉店しておりますが、银杏・メトロは営業しておりますので、そちらも合わせてご利用ください。受付までお越しいただければ案内図を用意しております。

プログラム

午前の部 (9:30-12:50) : 小児等の在宅・地域生活を支える医療的支援について (司会 : 米山 明)

- 0 (9:30)開会の挨拶 第14回研修セミナー大会長 米山明 日本小児神経学会社会活動委員会
- 1 (9:35-10:05 30分)「医療的ケア」と支援体制などー日本小児神経学会の15年間の取組みをふり取りながら
北住映二 心身障害児総合医療療育センター 所長
- 2 (10:05-10:35 30分)小児等在宅診療を通じて地域生活支援を考える (福祉・保健との連携)
さいわいこどもクリニック 宮田章子
- 3 (10:35-11:05 30分) 在宅生活を支えるリハビリの役割
スマイル訪問看護ステーションPT 直井寿徳
(休憩 15分)
- 4 (11:20-11:50 30分) 小児等在宅医療を地域で支えるネットワーク作り (医療・保健・福祉・教育)
連携コーディネーター看護師 谷口由紀子 淑徳大学看護栄養学部 地域看護学領域 (講師)
- 5 (11:50-12:20 30分) 行政説明1 小児等在宅医療について 桑木光太郎
(前厚生労働省医政局地域医療計画課在宅医療推進室、現久留米大学消化器内科)
- 6 (12:20-12:50 30分)親の立場から『医療的ケア』について、支援者へ望む事
野田聖子 (衆議院議員)

昼休み中 : (医療機器 ; 胃瘻ボタン・気管カニューレ、人工呼吸器・災害時の代替機器展示と試しコーナー (中13階))

午後の部(14:00-17:30) : (学校等における医療的ケア) (司会 : 田角 勝)

- 1 (14:00-14:30 30分) 行政説明「学校等における医療的ケア」
文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 専門官 分藤賢之
- 2 (14:30-14:50 20分)『医療的ケア』必要児童生徒への教育支援 :
特別支援学校の現状と課題 (東京都立 光明学園 教諭 大山衣絵)
- 3(14:50-16:10 80分) 呼吸・嚥下・栄養関連の医療的ケア
～人工呼吸・気管切開・吸引・酸素、胃瘻を含む経管栄養、栄養関係などの医療的ケア
山口直人 : 心身障害児総合医療療育センター リハビリテーション科医長 医師

休憩 15分
- 4 (16:25-17:05) (40分)「指示書」は医療と教育の連携ツール : 指示書の意味と学校(保育所等)での実践 :
中谷勝利 東京都立大泉特別支援学校 学校医 心身障害児総合医療療育センター 研究研修部長
- 5 (17:05-17:25) (20分) 今後の医療的ケアについて
(学校での人工呼吸器療法児への対応についてのガイドライン日本小児神経学会案の紹介も含め)
日本小児神経学会 社会活動委員会委員長 高田哲 神戸大学大学院保健学研究科教授
- 6 (17:25-17:30) 全体の質疑応答及び閉会の挨拶